

2015年3月期第1四半期決算説明 質疑応答

1. 日時：2014年8月6日（水） 16:30～17:30
2. 場所：コンファレンスホール
3. 当社側説明者：代表取締役副社長執行役員 CFO 岡田譲治
執行役員 CFO 補佐兼経理部長 松原圭吾
IR 部長 野瀬道広

4. 質疑応答

質問 鉄鉱石事業子会社（MIOD、MII）の利益を見るに市況下落の影響をそれほど受けてないようだが、増減要因は。

回答 MIODは金属資源持分で前年同期比38億円の減益（税後）となっており、増減要因は価格要因で70億円減、為替要因で10億円減、一方で数量増を要因に10億円増となっている。加えて、金額は非開示だが当期からインフラ使用料が入っており、プラス要素となっている。MIIは価格要因での20億円減があったが、数量増やその他の影響もあり前年同期比ほぼ横ばい。

質問 当社はエネルギーなどロシアにおける資源関連のエクスポージャーが大きく、また自動車関連のビジネスも行っているが、ロシアの政情不安に関連し、何か影響はでているか。

回答 当社は天然ガス、穀物、森林資源などの天然資源をロシアから輸出する事業が多いが、今のところ影響は出ていない。但し、仮にこれらの事業に関して国際的な貿易制限が加えられる事態となった場合は影響が生じる可能性もある。

質問 エネルギーなど天然資源関連以外のオペレーションでも影響はないか。

回答 今のところない。

質問 足元では下げ止まっているものの、今年度に入って鉄鉱石のスポット価格がかなり下落しているが、鉄鉱石価格下落による影響は数量増でカバーできると考えているか、それとも鉄鉱石事業及び金属資源セグメントの利益自体も下振れのリスクがあると考えているか。

回答 補足資料に記載している中国向けの鉄鉱石の指標価格である CFR North China Fe62%をみると、4月から6月にかけてずっと下降線を辿っており、現在は下げ止まっている状況。従い、1Qの決算には下落分が全て反映されていない。当社の鉄鉱石事業で生産している鉄鉱石はコスト競争力に極めて優れた良質な鉄鉱石なので、価格下落を数量でカバーすることは部分的には可能であり、またコスト削減努力も行っている。但し、価格下落分が業績の下振れに全て繋がるということではないが、若干の下振れは覚悟している。

質問 新中期経営計画において、2017年3月期の目標ROEを10-12%と打ち出しているが、IFRSにより株主資本も増加しているため、当期のROEも下限の10%に近づいていると思うが、ROE10-12%という目標は単年度も達成を目指すのか、それとも最終年度のみの目標か。

回答 現時点での株主資本の水準と年間計画の当期利益 3,800 億円の目標を勘案すると今年単年の達成はぎりぎりかと思うが、最終年度のみでなく、単年度の達成にも拘っていききたい。

質問 今年度 ROE10-12%を達成するために利益の上振れを目指すと同時に資本政策についても機動的に考えていくとの認識でよいか。

回答 ご理解の通り。

質問 石炭事業の子会社・関連会社の BMC 及び MCH で併せて 20 億円の当期利益がでていいる。石炭価格は低かったが今後もこの規模で推移するのか。市況要因、数量要因など説明して欲しい。

回答 MCH、BMC ともに 1Q の操業が好調だった。MCH は Dawson、German Creek、Bengalla の操業が好調で現時点では計画通りの数字になると考えている。BMC も South Walker Creek、Poitrel ともに操業好調で、前年同期比 8%増という当初の計画通りの数字を達成していくと考えている。コスト削減も順調に進んでいる。

質問 石炭価格は 7-9 月も横ばいで決まっているので、年間では 1Q の数字を 4 倍して考えてよいか、また、当該数字は期首計画通りか。

回答 期首計画は開示しておらず、従って 4 倍で計画通りであるかということはいえませんが、いずれにしても価格要因もあるので注視していく必要があると考えている。

質問 シェールガス・オイルの日量の生産量は。また、生産量について足元でどうみているか。併せてエネルギーセグメントはほぼ計画通りなのか教えてほしい。

回答 シェールの数量でいうとテキサスの Eagle Ford はバレル換算で約 11,200 バレル/日。Marcellus が約 43,000 バレル/日。エネルギーセグメントの進捗については、期首計画は 1,400 億円だが、想定通りに進んでいると理解してほしい。

質問 シェールは今年も増産が進んでいくという理解でよいか。

回答 そのご理解でよい。シェールオイルも昨年度に更なる開発を進めることを決定しており、増産も進めている。利益も 1Q から Marcellus 含めて黒字化している。

質問 シェールに関連し、Marcellus を保有する MEPUSA の 1Q はかなりの黒字。ガス価格が冬場で高かったことも要因と思うが、実現価格はどのくらいか。また、今の市況で課税所得が恒常的に黒字になっているか確認したい。

回答 Marcellus の実際の販売価格や課税所得については開示できない。

質問 1Q の利益は一過性要因により良い数字となっているのか。

回答 生産も順調なので業績としては普段通りと考えて欲しい。

質問 食糧に関し、1Q はマルチグレイントレーディングが赤字で、農業事業の Xingu Agri が黒字だった。従来は逆というイメージがあったが理由は。

回答 集荷販売事業のマルチグレイントレーディングは、前渡金を農家に支払い集荷しているが、当期より前渡金の与信リスクに対する引当の計上基準の厳格化をし、追加の引当を計上した費用も発生しているため、赤字となっている。

農業事業は、昨年は天候や害虫被害があって思うようにうまくいかなかったが、今年は天候に恵まれて好調な生産を維持した。

質問 1Qで500億円のリサイクルがあったが、通年での進捗はどうか。年度末に向けてのターゲットは。また、投融資のうち、新規事業の100億円の内訳、内容について攻め筋ごとの分け方ができるか。

回答 投融資とリサイクルについて、年間計画の数字は公表していないが、当期から投融資及びリサイクルについてはガイドラインという形で営業本部と数字を合意しており、今のところ予定通りの数字である。新規事業への投資100億円については、内訳は開示できない。

質問 投融資の合計1,750億円のうち既存事業とパイプライン案件の内訳は。

回答 既存事業とパイプライン案件の内訳は開示していないが、中経公表の際にパイプライン案件は明示しているのでご覧頂きたい。ブラジルの一般貨物輸送事業への投資は、元々は前年度に投資を完了する予定だったもので、これをパイプライン案件と呼んでいいか難しいが、当期において約700億円を投資した。資料に能力拡張の記載のあるものは既存事業に係るものだが、詳細をきれいに既存とパイプライン案件に分けた説明はしていない。

質問 鉄鋼製品セグメントと生活産業セグメントの進捗率が低いですが、2Q以降の見通しは。

回答 鉄鋼製品については、計画に対しての達成はやや厳しいかとみている。海外の市況が、特に中国製品の影響で市況が低迷しており、取扱数量も伸び悩んでいるのでなかなか厳しい状況と認識している。生活産業は、先ほどの説明したマルチグレイントレーディングの一過性の引当等を含む特殊要因が1Qに纏まってでている。

質問 サハリンIIの配当の金額の見方を教えて欲しい。併せてロシア情勢に絡むリスクとしてサハリンII、特にトレイン3等でなにか影響でてくるか。

回答 サハリンIIの配当の今後の見通しは、一般論としてPSA契約では、事業が進んで投資回収が進むにつれて政府の取り分が増えていく傾向にある。当期のサハリンIIからの配当も、当社の事業計画では前期ほどの金額は見込んでいない。但し、当社の受取配当額は政府取分の比率以外にも原油価格など様々な要因に左右されるということをご留意いただきたい。

また、サハリンIIの拡張計画は、現在FEEDにむけた作業中の段階であり、現時点ではロシアへの制裁等による影響は生じていないが、今後については何も言えないのが実情。

質問 エネルギーセグメントの期首計画から1Q実績を差し引き、残りを3で割ると約280億円/四半期で、1Q実績と比べると低い何かマイナスの要因見込んでいるのか、それとも上振れ傾向にあるのか。

回答 エネルギーの1Qは非常に好調。米国の冬場のガス値上昇の影響等ありMEPUSAの1Q実績は好調であったが、2Q以降はここまでは出ないと考えている。また、探鉱費に関しても年間を通じて発生する前提で考えているが、2Q以降にコストが増加する見込みとなっている。従い、1Q実績と同じペースで4倍ということではみていない。

質問 石炭事業のコスト削減に関してはどういったことが行われているか、想定通りの効果がでてきているのか。

回答 コスト削減は、業界一体となってコスト削減をしている中で効果が出てきた。何か通常行っているコスト削減策以上の特別なことが起きている訳ではない。

質問 想定以上のコスト削減効果が出ているということか。

回答 石炭処理プラントを増強するなど、どこの山も削減努力はしていると思う。当期でこのようなコスト削減の効果が出たことは喜ばしいが、今後も続けていかなければならないと考えている。

質問 機械インフラセグメントに関し、水事業会社のアトラテック、及び鉄道車輛リース事業で強い数字がでてきている。この背景と今後の持続性は。

回答 アトラテックは同社の出資先の関係会社の業績に重要性が出てきたため、同社を当期から連結範囲に取り込んだ。その際に過去のREを一気にPL認識したことによるプラスの影響がでてくる。機関車車輛リースは事業そのものも好調であるが、さらに一過性要因もあったので実力以上に数字がでた。

質問 年間予想に対する進捗率は34%だが、どのような評価をしているか。

回答 進捗率34%と非常に強い数字がでた背景は次の通り。サハリンIIを含めたLNG配当が1Qに多いことや、原油・ガス価格が堅調に推移したこと。鉄鉱石価格の下落の影響が1Qでは完全に反映されていないほか、1Qは数量増やコスト削減、或いは為替等で価格下落による影響を一部カバーすることが出来たため。さらに機械インフラもIPPや自動車を中心に堅調に進捗率も高かった。年間では、経済環境としては中国経済の動向、アメリカの金融引き締め開始の時期、或いは地政学的リスクもあると考えており、市況、鉄鉱石の価格下落要因なども考慮すると、現時点で計画値の3,800億円を見直すのは時期尚早と考えている。

質問 サハリンIIの配当は、配当の支払われ方が変わり、配当の頻度が増えたと考えるべきなのか、その場合は1回当たりの配当額が減少したという理解でいいのか。PSA契約の下で投資回収が進んだ分、当社の取り分が減額していると考えべきか。

回答 色々な取決めが契約書にあることや、加えて生産動向やキャッシュフローなどの要素もある。先ほどの説明の通り、一般論としてはPSA契約で生産が進んでいくとホストカントリーの取分が増えていくが、それ以外の配当の考え方については説明できない。

質問 化学品が前年同期比で減益となっているが、下振れ要素があったのか。2Q以降の見通しは。
回答 化学品は前期末にインドネシアのKPAがBOT契約に基づく資産譲渡により事業を終了しており、当期から取り込みがなくなったのが大きな要因。また、北米のダウとの電解事業は操業開始したが、現時点では苛性ソーダとEDCの市況が芳しくないため減益となっている。これについては今後の市況次第と考えている。

質問 エネルギーに関し、持分権益生産量は今年から来年にかけて一旦ピークアウトして、横ばいとなるという計画だったと思うが、今期の生産量は四半期ごとにせり上がるとみていいのか。当期及び来期を考えたとき、シェールのアウトプットなどを勘案し、いつピークのタイミングとなるのか。

回答 原油・ガスの生産量の増加は、米国のシェール、及び昨年FPSOの改修のため生産を一時停止していた豪州のVincent油田の生産量が当期に回復したことが主因。一方で既存権益の減衰による生産量の減退のほか、昨年のニュージーランドやエジプトなどの一部資産の売却による減少もある。今年の5月に公表した原油・ガスの生産量は、15/3期から16/3期は横ばいでみているが、これは今の説明の通りのプラスとマイナスのネットによる影響。それ以降はイタリアのTempa Rossaなどにより増えていくというトレンドになっている。

質問 当期は生産数量の増加をある程度期待できるということか。

回答 1年のうちの前半・後半という詳細は数字が読みにくい。あくまでも前期の実績である24万3,000バレルが当期は26万3,000バレルになると通年単位でみていただければと思う。

質問 投融資計画は3年間で1兆5,000億円、年間で5,000億円という計算になるので、1Qの進捗は5,000億円に対しては好調な滑り出しかと思うが、今回の投資額とリサイクルのグロス金額と、投資額とリサイクルをネットした金額のどちらをバロメーターとしたらいいのか。

回答 新中経で公表した投資計画は、既存事業とパイプライン案件の合計で1兆5,000億円と公表しているが、年度ごとの公表は行っていない。営業本部とはガイドラインとして投融資計画を合意しており、1Qが終わった現時点では、ほぼガイドラインに沿った数字となっている。既存事業とパイプライン案件の1兆5,000億円をガイドラインとしてみているので、四半期毎に数字が増減すると思うが、リサイクルも含めて略計画どおり。

質問 リサイクルの進捗度合が投資計画に影響することは特にないと理解でいいか。

回答 3年間でFCF黒字化を目指すということになると、既存事業+パイプライン案件というよりも、新規投資が想定以上に出てきたときに、必要なキャッシュを賄うために追加的にリサイクルを行うこともあり得る。今度どのような新規投資がでてくるかしっかりと見極めながら、リサイクルを行ったり、他の手段或いは資産を入れ替えたりして考えながら対応していく。

以上